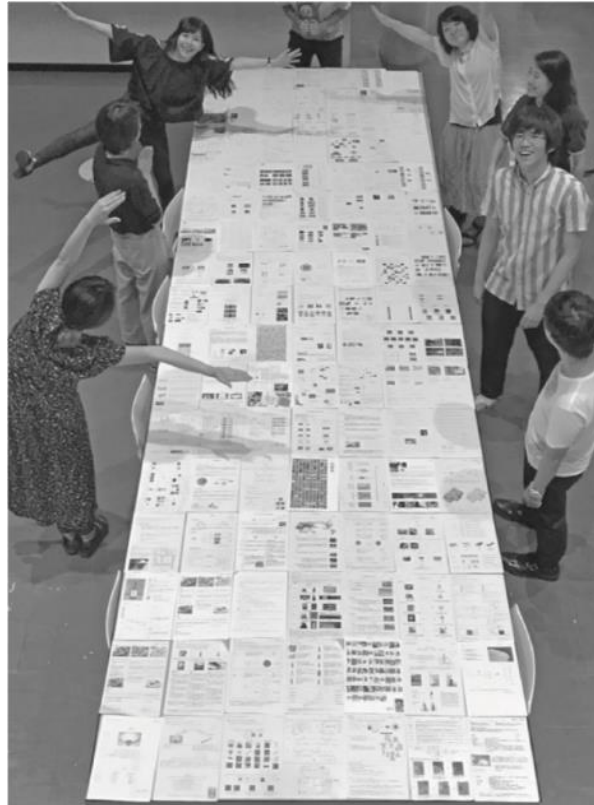


福島研究室（建築設計）

福島研究室では主にゼミ活動と千年村プロジェクトという活動を行っている。ゼミ活動は主に大学4年生が和風，大学院生が和様をテーマに週一回ゼミを行っている。ゼミ活動やその他プロジェクトを含め，自身の考えを必ずレジュメという形に残し，自分の考えていることを日常的にまとめて他人に伝える力を養っている。

ゼミ活動

各々が「そもそも和風/和様とはなんだ？」という日常にある当たり前について丁寧に考えることからスタートしていく。解答を得ようとするのではなく，考える力と伝える力，そして自分の設計に活かす知識を蓄えるためのゼミである。また，自分の考えをレジュメという形で残したり，学期末ごとにBookletを作成している。



千年村プロジェクト

早稲田大学や千葉大学と共に参加しているプロジェクトである。千年村とは、千年以上にわたり 自然的社会的災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域のことである。福島研究室では、建築の中に千年持続する秘密をどのように見つけるかが大きな課題としてある。具体的には、千年村のダイアグラムをつくれなかと考えており、それを見ることで千年村であると分かったり、昔がどうなっていて未来がどうなるかを予測できるようなものを作成し、これらのダイアグラムと、現地の写真を組み合わせることで、1000年前と100年後を類推できるような手法をつくるのが目標である。

千年村をデザインから分析

2017年、福島研究室では2回の現地調査に参加し、21の集落を見学した。そこで集落構造がわからないにも関わらず、千年村でありきたりだ、という雰囲気を感じる事ができた。この雰囲気をデザインから分析することで、建築史、造園、民俗学などの専門的知識がなくとも、建築史、造園、民俗学などの専門的知識がなくとも、これらを見つめることは、集落の住人に誇りを得た。これからのまちづくりの大きな手がかりとなるだろう。千年という時間単位は、集落の変化を確認することがたいへん難しい。空想という印象による考察と様々な年代の地図からダイアグラムをつくることで集落の持続性に関する可能性を拡張したい。そこから、1000年前と100年後を類推できるような手法をつくるのが目標である。

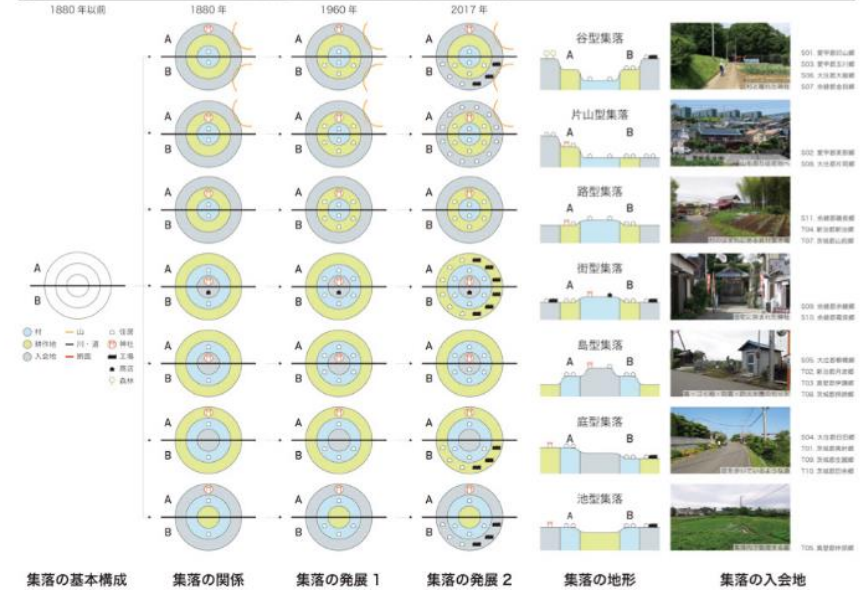


4つの「見た目」- 千年村の雰囲気の抽出 -

千年村の雰囲気を分析するにあたって「現代とどのようにつながるのか」というのが重要なテーマである。地形や地質は千年持続するが、建築は千年持続できない。建築の中に千年持続する要素をどのように見つけるか大きな課題である。千年村の雰囲気は集落のいくつかの「見た目」の組み合わせから生み出されているのではないかと考えた。この「見た目」とは、千年村に住む人たちの生活、建物の配置の仕方、特徴的な地形などである。ここから共通する雰囲気を抽出することで、集落構造の手がかりを見つける。いくつかの調査を行った結果、「見た目」要素は「水平的境界」「明快な生産・経済基盤」「みんなが集合・共有・管理する場所」「集落を二つに分ける川や道」の4つが挙げられる。この4つの「見た目」から集落にはいくつかの領域があることと集落が二つに分かれることが観察できる。

- 1 水平的境界**
道路で写真を割ると水平方向に同じような建築や土地利用が連続しており、垂直方向の用途区分が明快である。領域を区分するのは土高の高低だけでなく、距離に準べられた道路幅や傾斜につくられた植栽など千年村ならではの特徴である。
- 2 明快な生産・経済基盤**
多くの千年村は多様な土地利用ができる地質の境界線に立地しており、耕作・耕作を基本的な生産とし、現在でも生活と生産が持続している。また、お祭が必要であれば土地を売り、生き延びるために冷静に選択する合理性を強く感じる事ができる。
- 3 みんなが集合・共有・管理する場所**
千年村にはみんなが交流する場が多く見られる。現地で使われている神楽殿、道がいつまでも賑わさずしくいように手入れされた庭、集落の中央に配置された古くも・防火水塔・物置のセオリーなどの文脈は集落の歴史の大切な要素の一つである。
- 4 集落を二つに分ける川や道**
集落を分ける川や道の左右で雰囲気が大きく異なることがある。これは集落の発展した過程を知る手がかりとなる。分かれる理由は、日本家と分家などのヒエラルキー、位階づけとして使われた場所、古くからある主要な道路、の3点が考えられる。

集落構造ダイアグラム - 同心円状三重領域と二分される村 -



集落の基本構成
集落は、村、耕作地、入会地の3つの要素からなる三重領域とそれらを二分する川や道で構成されている。三重領域の順番は集落によって異なり、住居は村に必ず存在するが神社は耕作地か入会地に存在する。

集落の関係
2つの集落の間隔は、A>Bのヒエラルキー型とA=Bのフラット型の2つのタイプが存在する。ヒエラルキー型は、第3領域に神社が存在し、AがBより豊かな環境である。フラット型は、第1・2領域に神社が位置し、AとBの差がない。

集落の発展1
戦後の地区と過去開墾を比較すると、住居のみが増えているが、ヒエラルキー型とフラット型で増え方が異なる。ヒエラルキー型は、Bだけが住居が増えるが、Aは変わらない。フラット型はAとBが同じように増えている。

集落の発展2
ヒエラルキー型の集落は、Bが新しい市町村や工場が第3領域に発展するのに対しAは冷涼保存されたままである。フラット型の集落は、そのまま冷涼保存される集落とAとB両方とも第3領域に発展する集落に分かれる。

集落の地形
7つのタイプ分けられる。この7つの共通点は傾斜と平地がセットになっていることである。わずかな傾斜でも周りを数cm高くなると様々な災害を乗り越えるための重要な条件であり、集落存続に大きく関わっている。

集落の入会地
千年村の入会地はいくつかの種類があり、定り渡してしまふ場所、町民のみが使用される場所、知人を取り入れる場所も使われ続け、まれに保たれている。この入会地、つまりコンセンは現在の郡部には存在しない。千年持続してきた集落のコンセンの使い方を分析することは、今後のまちづくりの大きな手がかりになるのではないだろうか。

